

目指す学校像	<地球規模で考え、足元から行動する生徒の育成> ◆夢や希望をはぐくむ教育 ◆生徒一人ひとりを大切にされた教育 ◆基礎学力の着実な定着を図る教育
--------	--

重点目標	1 ICTを活用した主体的・対話的な深い学びの授業や分かる授業の実施と基礎学力の確実な定着 2 安心・安全な学校生活を目指し、自尊感情を高める生徒指導・教育相談と学校行事の充実 3 コミュニティ・スクールの着実な推進と保護者・地域との連携強化 4 SDG s の実現を目指した ESD (持続可能な開発のための教育) の研究実践による教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査では、国語と数学ともに全国平均正答率には届いていない。また「勉強が好きだ」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市の平均よりやや低い。 ○学校評価アンケートで「分かる授業の実施」に95.6%の生徒から肯定回答を得るものの、保護者からは71.5%、教職員は75%であった。 <課題> ○日頃の学習の様子から、発表する学習活動に意欲的に取り組む生徒が多く見受けられるが、自分の考えや思いを豊かに表現するには至っておらず、「分かる授業」による基礎学力の定着と思考力・表現力の更なる育成が課題である。	・ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの授業の実施 ・分かる授業による基礎学力の定着	①主体的・対話的で深い学びとなるように一人1台のタブレットを活用し、思考を大切にする授業実践を全教科において実施する。 ②生徒が安心して自己表現し合える学級の雰囲気づくりと学習活動の工夫によって、豊かな表現力を育む授業を全職員で展開する。	①「よい授業アンケート」のアクティブラーニング型授業の因子の全職員平均値が、昨年度よりも向上したか。 ②各教科等において、プレゼンテーション活動を取り入れた授業が実施されたか。					
2	<現状> ○心と生活のアンケート結果から、自己肯定感の低い生徒が見受けられる。 ○日頃の生活の様子から、コロナ禍によるストレスや不安感、人間関係のトラブルなどを抱えている生徒も少なくない。 <課題> ○自己肯定感の低い生徒たちが、安心安全な学校生活を送れるようにするために、学校行事や授業を通じて、一人でも多くの生徒が成就感や達成感を感じることができている教育活動を工夫することが課題である。 ○いじめの撲滅と不登校生徒の減少に向けて、組織的・計画的な生徒指導・教育相談体制の更なる充実が課題である。	・自尊感情を高める生徒指導・教育相談体制の充実 ・自己肯定感を高める学校行事や特別活動の実施	①週1回の生徒指導委員会及びいじめ対策小委員会を開催し、生徒指導に係る情報の共有と方策の検討を行う。 ②週1回の教育相談部会における「報告・連絡・相談・確認」を徹底し、生徒一人ひとりに適切な対応ができるようにする。 ③生徒の心に寄り添い生徒の自己肯定感を高めるようなや生徒への声掛けや二者面談を行う。	①全ての生徒がスタディサプリを活用している状況になっているか。 ②学校図書館の貸し出し冊数が、昨年より増加したか。 ③学校自己評価に係るアンケートにおいて、評価項目「分かる授業」の肯定的な回答が、生徒90%以上、保護者80%以上、教員95%以上となったか。 ④新体力テストの結果で、「投力、持久力」が昨年度よりも向上したか。					
3	<現状> ○昨年度の学校運営協議会準備委員会では、熟議を重ね、SDG s 「11 住み続けられるまちづくり」の目標を踏まえながら、目指す生徒像を「地球規模で考え、足元から行動する生徒」とし、学校・保護者・地域総がかりで取り組める活動について話し合い、実施した。 <課題> ○今年度は、学校運営協議会の更なる充実を目指し、目指す生徒像をもとに身に付けさせたい力について熟議し、その実現のため地域学校協働活動「認知症サポーター養成講座」をさらに工夫・充実させて実施することが課題である。	・生徒の学校生活の様子の地域・保護者への情報発信と学校公開 ・地域学校協働活動案の策定と実施	①学校 HP に、生徒の活動の様子を伝えるページを作成し、家庭・地域に毎日更新して発信する。 ②学校公開 (体育祭、合唱コンクール、芸術鑑賞会、文化発表会)、保護者会、授業参観など、学校を地域・保護者に公開する。	①ホームページをほぼ毎日更新して、生徒の様子を家庭・地域に発信できたか。 ②体育祭、合唱コンクール、芸術鑑賞会、文化発表会、保護者会、授業参観など、地域・保護者に学校公開を実施できたか。					
4	<現状> ○タブレット等の ICT の活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を行っている。 ○全職員で ESD 研究推進委員会を定期的に開催し、SDG s 実現のための ESD 研究を進めている。 <課題> ○全ての職員が「学習の個別最適化」「学習の自律化」の実現を目指し、タブレットなど ICT を効果的に活用した授業改善のための研修を行うことが課題である。 ○全職員で引き続き ESD の研究を推進して、全ての教科等において SDG s の視点を取り入れた授業改善に取り組むことが課題である。	・タブレットなど ICT を効果的に活用した授業改善のための研修の実施 ・ESD の研究の推進	①「学習の個別最適化」「学習の自律化」の実現を目指し、タブレットなど ICT を効果的に活用した授業方法を学ぶ校内研修会を、外部講師を招聘して実施する。 ②各教科で、ICT を活用した研究授業と研究協議を1回実施する。	①全ての教員が、「学習の個別最適化」「学習の自律化」を意識して、日常的に ICT を活用する状況になったか。 ②各教科等で、年1回以上 ICT を活用した研究授業と研究協議が実施できたか。					